

都道府県名	佐賀県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富士町立富士小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	10
児童数	20	17	10	22	17	17	0	103	

II 研究の概要

1. 研究主題

一人一人を大事にする算数科の指導
～学ぶ喜びを感じる子どもの育成をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○ 全学年・算数
子どもの習熟度や能力の差が大きい教科であり、富士中学校の研究教科「数学」との小・中連携を図るため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度

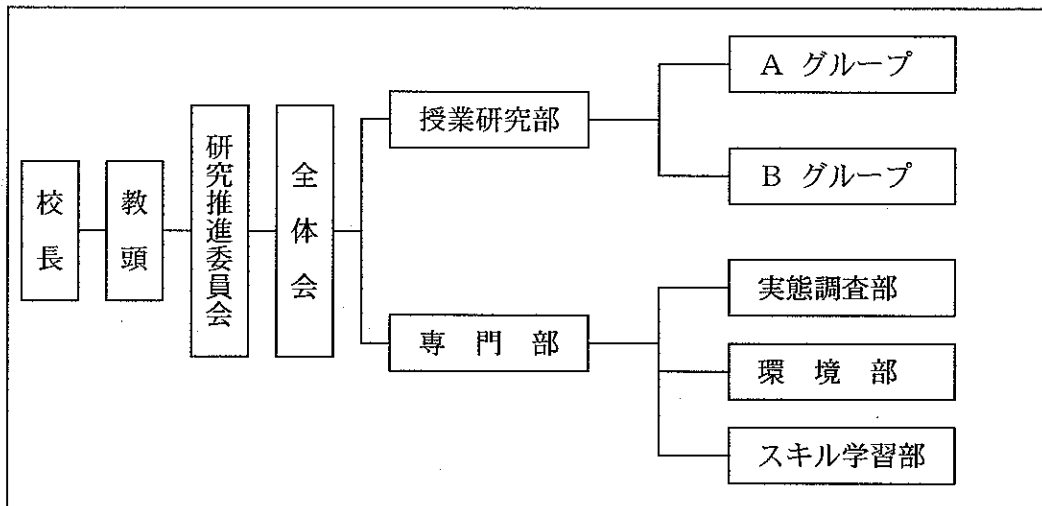
- テーマ
一人ひとりを大事にする算数科の指導
～学ぶ喜びを感じる子どもの育成をめざして～
- 研究内容・方法
 - ① 児童の実態を調査し、把握する。
 - ② 個に応じたきめ細かな指導法の工夫・改善を行う。
 - ③ 発展的な学習や補充的な学習のための教材を開発する。
 - ④ 評価を生かした指導の改善を行う。

平成15年度

- 研究の主眼
 - ・発展的な学習の教材開発
- 研究の見通し
単元ごとに指導方法や個人差に応じた発展的な学習や補充的な学習の教材を工夫すれば、それぞれにあった課題の設定ができ、考える時間が確保され、基礎基本が確実に身に付き、自力解決の喜びを味わえ、確かな学力が身につくと考えた。
- 研究の内容
 - ① きめ細かな指導による個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
 - ② 発展的な学習や補充的な学習のための教材開発
 - ③ 評価を生かした指導の改善
 - ④ 児童の実態把握（NRT診断的学力検査・各種アンケート）
- 研究の方法
 - ・先行研究の文献により、理論的な研究授業を行い、全体研究会で検討する。
 - ・各種研究会に参加し、研修を深める。
 - ・先進校を視察したり、研究発表会に参加したりすることにより、指導法や環境整備等について研修する。
 - ・講師招聘をし理論研究をする。
 - ・授業研究
*1年間に各学年1回、研究授業をする。うち2回を公開授業とする。

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究の主眼 <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習の教材開発 ・発展的な学習を位置づけた年間カリキュラム作成 ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに指導方法や個人差に応じた発展的な学習や補足的な学習の教材を工夫すれば、それぞれにあった課題の設定ができ、考える時間が確保され、基礎基本が確実に身に付き、自力解決の喜びを味わえ、確かな学力が身につくと考えた。 ○ 研究の内容 <ul style="list-style-type: none"> ① ぎめ細かな指導による個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 ② 発展的な学習や補足的な学習のための教材開発 ③ 評価を生かした指導の改善 ④ 児童の実態把握（NRT診断的学力検査・各種アンケート） ○ 研究の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の文献により、理論的な研究授業を行い、全体研究会で検討する。 ・各種研究会に参加し、研修を深める。 ・先進校を視察したり、研究発表会に参加したりすることにより、指導法や環境整備等について研修する。 ・講師招聘をし理論研究をする。 ・授業研究 <ul style="list-style-type: none"> * 1年間に各学年1回、研究授業をする。うち2回を公開授業とする。 ・3か年の研究のまとめをする。
--------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 指導方法・指導体制の工夫

昨年度は、少人数担当者が全学年の算数授業を担当していた。そのため、6学年分の教材研究をじっくり行うことができず、担任との打ち合わせもゆっくりできなかった。今年度は、教頭・教務・少人数担当の3人で6学年分の算数を分担した。同じ時間帯に3学年分の教材研究・打ち合わせの時間をゆっくり取ることができるようになり、教材研究が深まるとともに、児童一人一人の理解も深まった。

(2) 発展的な学習や補足的な学習のための教材開発

初年度は、興味・関心別、課題別、習熟度別、等質など、いろいろなパターンの少人数授業に取り組んだ。その中で、1クラス10名から多くても22名の元々少人数の我が校では、児童の多様な考えを引き出し練り合うところではTTによる一斉指導で授業をし、小単元末や単元末で習熟度別の少人数授業に今年度は取り組むことにした。そのことにより、個人差に応じることができ、それぞれにあった課題の設定ができ、考える時間が確保され、基礎・基本が確実に身に付き、自力解決の喜びを味わえ、確かな学力が身につくと考えたからである。

5年生の「面積」の学習では、小単元ごとに習熟度別少人数授業を行った。単元末では、発展教材として取り上げられる「台形の求積」を、【発展的な学習コース】と【補充的な学習コース】の児童にあった視点で教材をとらえなおしてみた。【発展的な学習コース】では、台形を既習の図形に変えるアイデアを出し合い、どの方法が数理的にも簡潔でわかりやすいかを考える楽しさを味わわせる授業をし、【補充的な学習コース】では、はじめに三角形・平行四辺形の求積の復習を丁寧にし、その後既習事項を使えば新しい台形という図形も求積できるという学びなおしの授業を仕組んだ。同じ台形の求積という教材を、個に応じた習熟度別少人数授業で取り組んだことで、児童は学ぶ喜びを感じてくれたようだ。児童は、次のような感想を書いた。

【発展コースの児童】

- ・ Aさんのアイデアは、すごい！自分は思いもつかなかった。
- ・ (終わっていない友だちを) 待つ時間がなくて、楽しかった。
- ・ 自分のペースで勉強ができるので、また分かれて勉強したい。

【補充的な学習の児童】

- ・ いつもよりよくわかった。
- ・ 自分でも発表することができて、うれしい。
- ・ また分かれて勉強したい。

(3) 評価を生かした指導の改善

高学年ではノート指導をし、学習の構え・学習の仕方が身に付いてきた。また、評価の基準A・B・Cを児童にもわかるように示し、自己評価をノートに記録するようにしてきた。習熟度別少人数のコースを自己決定するための判断材料ともなり、自分を振り返るという手だての一つとして有効であった。

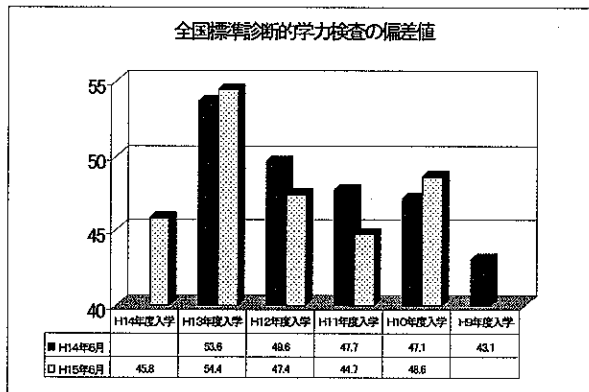
(4) 児童の実態把握

○ 算数科の全国標準学力検査(資料1)のH14年度とH15年度の偏差値を比較すると2学年で上がり、2学年で下がっている。これは昨年度つまり研究の1年次の成果を見るもので、初年度では学力がついたともついていないとも判断できない。そこで2年次の成果を見るべく、市販テストの観点別の1学期と2学期を比較してみた。

(資料2) 15のうち11が伸びている。1サンプルしかないが、学力向上の兆しが見え始めたのではないだろうか。3

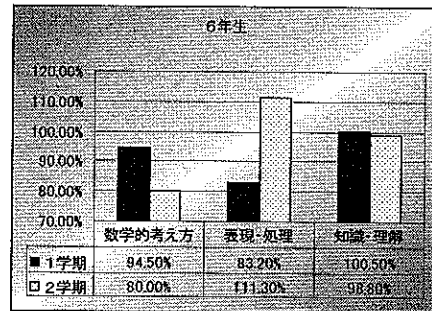
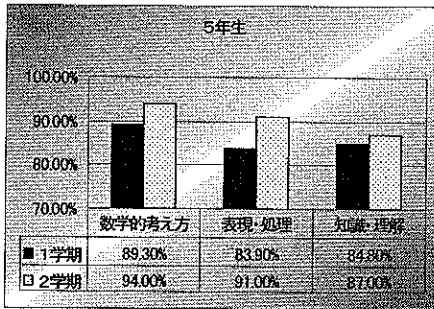
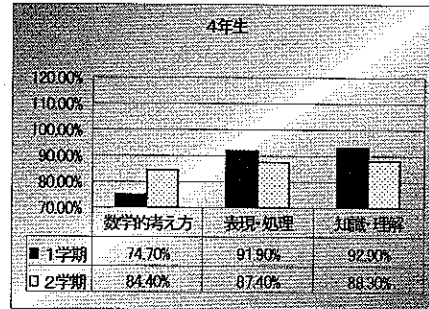
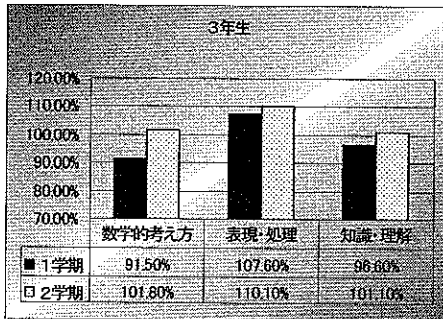
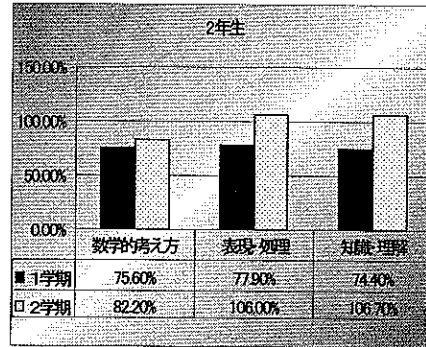
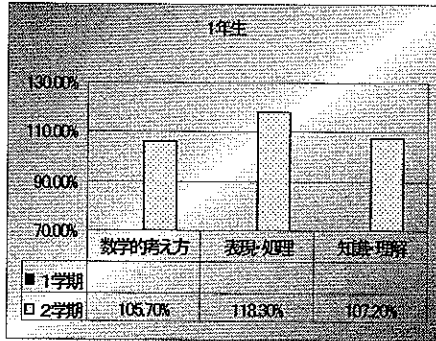
学期とH16年2月に実施した学力テストの結果で追跡していきたい。

資料1



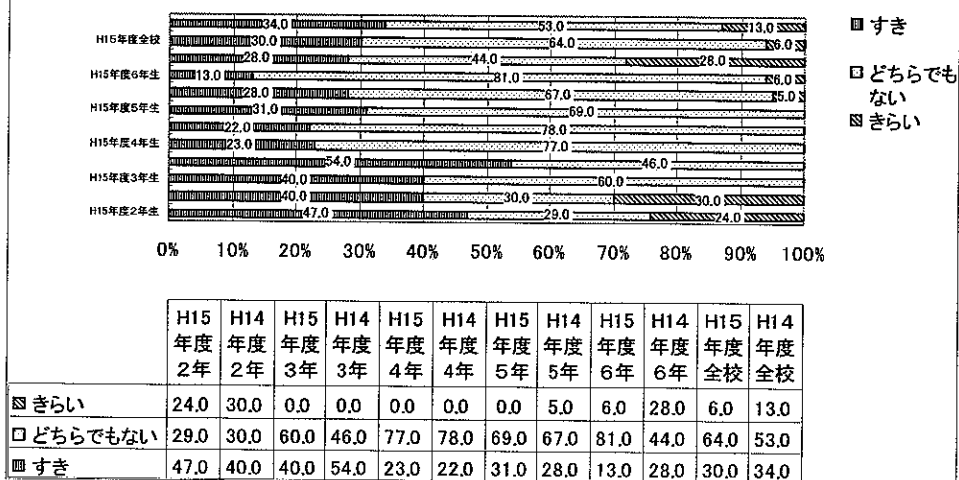
資料2 日本標準テスト（市販テスト）

* 全国平均点を100%とした場合の本校の平均点の全国に対する百分率

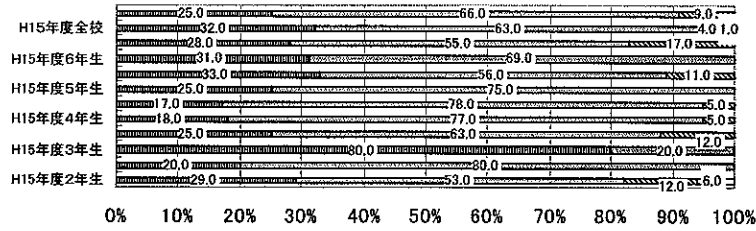


資料3 算数に対する児童の意識調査（アンケート）の結果

1. 算数の勉強は好きですか。



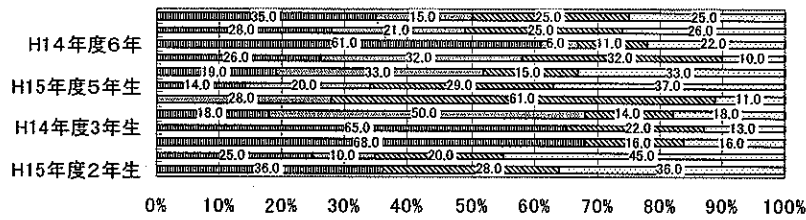
2. 算数の勉強は、よくわかりますか。



- よくわかる
- だいたいわかる
- あまりわからない
- わからない

	H15年度2年	H14年度2年	H15年度3年	H14年度3年	H15年度4年	H14年度4年	H15年度5年	H14年度5年	H15年度6年	H14年度6年	H15年度全校	H14年度全校
<input type="checkbox"/> わからない	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
<input type="checkbox"/> あまりわからない	12.0	0.0	0.0	12.0	5.0	5.0	0.0	11.0	0.0	17.0	4.0	9.0
<input type="checkbox"/> だいたいわかる	53.0	80.0	20.0	63.0	77.0	78.0	75.0	56.0	69.0	55.0	63.0	66.0
<input type="checkbox"/> よくわかる	29.0	20.0	80.0	25.0	18.0	17.0	25.0	33.0	31.0	28.0	32.0	25.0

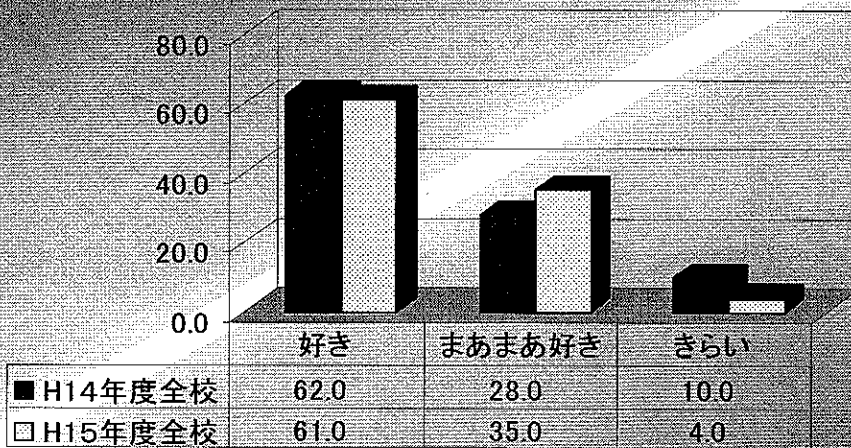
3. 算数の勉強がわからないときどうしますか。



- 一人ががんばる
- 友達に教えて
- 家の人に教えて
- 先生に教えて
- その他

	H15年度2年	H14年度2年	H15年度3年	H14年度3年	H15年度4年	H14年度4年	H15年度5年	H14年度5年	H15年度6年	H14年度6年	H15年度全校	H14年度全校
<input type="checkbox"/> その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
<input type="checkbox"/> 先生に教えて	36.0	45.0	16.0	13.0	18.0	11.0	37.0	33.0	10.0	22.0	26.0	25.0
<input type="checkbox"/> 家の人に教えて	28.0	20.0	16.0	22.0	14.0	61.0	29.0	15.0	32.0	11.0	25.0	25.0
<input type="checkbox"/> 友達に教えて	0.0	10.0	0.0	0.0	50.0	28.0	20.0	33.0	32.0	6.0	21.0	15.0
<input type="checkbox"/> 一人ががんばる	36.0	25.0	68.0	65.0	18.0	0.0	14.0	19.0	26.0	61.0	28.0	35.0

4. 少人数授業は好きですか？



2. 今後の課題

- 発展的な学習を位置づけた年間カリキュラムの作成
2年次は発展的な学習の教材開発を重点的に取り組んだ。3年次は年間カリキュラムの中に発展的な学習を位置づけていきたい。
- 自己評価力の育成
習熟度別少人数学習のコース選択は、診断テストや前時までの自分の学習を振り返り自己決定させている。学習効果を上げるためには、教師の評価と児童の自己評価が一致することが大切であり、児童に自己評価力をつけさせることが必要である。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- 標準学力検査（NRT）の実施（算数科のみ・H15年6月）
- 「算数」の学習に対する児童の意識を知るためのアンケート調査の実施
(H15年6月・H16年1月)
- 日本標準テスト（全学年・年間を通じて単元末ごとに算数科で実施）
- 東京書籍 標準学力テスト（H16年2月）

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 第1回公開授業・研究会
 - ・日時：平成15年6月26日
 - ・場所：富士小学校
 - ・第4学年 前半は一斉の発展的学習
後半は習熟度別少人数学習
・発展的な学習コース・補充的な学習コース
 - ・単元：「面積」
 - ・対象：佐賀県内小・中学校
- 第2回公開授業・研究会
 - ・日時：平成15年10月24日
 - ・場所：富士小学校
 - ・第5学年 習熟度別少人数学習
・発展的な学習コース・補充的な学習コース
 - ・単元：「面積」
 - ・対象：佐賀県内小・中学校
- HP作成 <http://www.saga-ed.go.jp/school/fujiisho/>
 - ・公開授業案内、指導案、公開授業の様子、研究協議の要約等掲載
 - ・校内研究授業の指導案・研究授業の様子・研究協議の要約等掲載
 - ・少人数便りの掲載
- 少人数便り（保護者向け）の発行

-
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無